

富士市中小企業景況調査結果

令和元年度第2四半期【令和元年7月～9月】

富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、200事業所(回収率68.7%)を対象に、「令和元年7月～9月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…平成31年4月～令和元年6月 今期…令和元年7月～9月 来期…令和元年10月～12月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲24.9	→	▲28.7 (▲12.0)	→	▲26.5
売上	▲7.4	↘	▲19.1 (▲1.5)	↗	▲14.0
採算	▲22.8	↘	▲30.3 (▲14.4)	↗	▲20.8

今期調査では、全産業合計の売上・採算DIともに下降、業況は弱含みの横ばいとなった。来期の予測については、全産業合計の売上・採算DIは上昇、業況は横ばいの見込みとなった。

DIを産業別にみると、建設業の今期主要DIは全て下降となり、「慢性的な人材不足や最低賃金の上昇に伴う人件費の増大が収益の圧迫要因となっている」との声もあった。製造業の今期は業況・売上高ともに下降、採算は横ばいとなり、来期予測の主要DIは全て上昇となった。一方、小売業は今期の業況・売上DIは上昇したが、来期予測は全て下降と予測しており、「消費の回復が見えないなかで、税率引き上げは先行きの不透明感と需要減退を危惧するほか、軽減税率やキャッシュレス決済によるポイント還元など複雑な制度が混乱を招くことへの懸念」を指摘する声が多数寄せられた。

製造業・卸売業では、米中貿易摩擦や中国経済の減速を背景に自動車関連・産業用機械を中心に売上が悪化したという声が高かった。

経営上の問題点では、製造業・サービス業で「設備老朽化」、建設業は「人材不足」、卸売業・小売業が「売上減に伴う利益減」が1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 卸売業、小売業は上昇。製造業、建設業、サービス業は下降。

来期は、製造業は上昇を予想。卸売業、サービス業は横ばいを予想。建設業、小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲23.1	↘	▲29.7 (▲17.5)	↗	▲8.1
建設業	0.0	↘	▲10.7 (17.9)	↘	▲17.9
卸売業	▲50.0	↗	▲42.9 (▲14.3)	→	▲38.1
小売業	▲55.0	↗	▲50.0 (▲33.3)	↘	▲65.0
サービス業	▲7.7	↘	▲20.0 (▲20.7)	→	▲23.3
全産業	▲24.0	→	▲28.7 (▲12.0)	→	▲26.5

〔売上高のDI〕 小売業は上昇。卸売業は横ばい。製造業、建設業、サービス業は下降。

来期は、製造業、建設業、サービス業は上昇を予想。卸売業は横ばい。小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲7.7	↘	▲16.2 (2.6)	↗	13.5
建設業	10.0	↘	▲28.6 (39.3)	↗	▲10.7
卸売業	▲27.3	→	▲23.8 (▲19.1)	→	▲19.0
小売業	▲20.0	↗	▲10.0 (▲20.0)	↘	▲70.0
サービス業	0.0	↘	▲16.7 (▲10.7)	↗	▲10.0
全産業	▲7.4	↘	▲19.1 (1.5)	↗	▲14.0

〔採算のDI〕 製造業、サービス業は横ばい。建設業、卸売業、小売業が下降。

来期は、製造業、卸売業は上昇を予想。建設業、サービス業は横ばい。小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲33.4	→	▲32.4 (▲25.6)	↗	2.7
建設業	0.0	↘	▲22.2 (7.2)	→	▲25.0
卸売業	▲31.9	↘	▲47.6 (▲14.3)	↗	▲28.6
小売業	▲35.0	↘	▲45.0 (▲13.3)	↘	▲63.2
サービス業	▲16.0	→	▲13.4 (▲20.7)	→	▲13.3
全産業	▲22.8	↘	▲30.3 (▲14.4)	↗	▲20.8

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙』…「包装用紙(紙製ストロー等)は脱プラスチックの動きから代替品として需要が増え、追い風が吹くと予想していたが未だ低調」との声。

『紙加工』…「東京オリンピックの特需はないが、脱プラスチックの流れが緩やかに進んでいる。雇用状況は引続き求人・採用難である。」「10月の消費税増税後の消費にどこまで影響が出るか予見できないが、早急に新商品開発が望まれる。」とのコメント。

『機械器具』…「世界経済の停滞を受け、輸出の低迷が続いている。人件費上昇により経営収益を圧迫。」「金型部品製造に於いて、今期は著しく落ち込んだが、10月から半年先の仕事量が見込め好転する様相。」「昨年は不変の年であったが、今期は緩やかに好転の兆しが見えつつある。」との回答。

「製茶機械製造では茶業界の先が見通せず、自社製品の他業界への販売を図りたい。」とのこと。

『機械部品・金属加工』…「10月以降の冷え込みが心配。一方では、自動車関連以外はかなり忙しくなりそう。」「米中貿易戦争の影響で、中国向け輸出の激減により、業界全体が冷え込んでいる。先の見通しは暗い。」とのコメント。

『自動車部品』…「全ての自動車メーカーが減産傾向であるため、受注部品の減少が高まっている。工作機械部品は自動車部品程ではないが、減少傾向になってきている。」「消費税増税の影響は今後ないと思われる。」との回答。「トラック部品製造において、9月に適用される車載式故障診断装置搭載に関する法規制や消費税増税の駆け込み需要の影響にて、トラック販売台数は8ヶ月連続で前年同月の実績を上回った。」「今後は排ガス規制強化の駆け込み需要からの反落や建設需要の落ち着き、ドライバー不足の深刻化、買換え需要が一巡することが減少要因になるとみられる。」「求人難・働き方改革に伴う労働力不足の補填について、機械化・自動化にも限界がある。」とのコメント。

『電子機器』…「業界の動向は横ばい。東京オリンピック終了後の経済状況を注視している。」との声。

『繊維加工』…「電気自動車(EV関連商品)の生産が増加する予定。」との回答。

『印刷資材』…「インキ業界、ゴムロール、産業機器販売とも弱含み。家庭紙業界は順調だが、大手企業の設備投資は、相当冷え込むと予見。米中貿易摩擦の先行き不透明感が増しているなか、2020年米大統領選が終わるまで包括的な合意が実現する可能性はほぼなく、今後も注視する。」との意見。

『印刷』…「原油高の影響で紙・他原材料の高騰を、販売価格に反映できず厳しい状況。」との声。

『食品』…「原材料価格の変動が激しい。売上向上のための戦略次第で上昇の余地はある。来期は、他の下請け企業の廃業により受注が回って来ると予想。」「食品を扱っているため、軽減税率対象商品となるが、資材などは10%の税率となるため販売価格・資材等見直しが必要。しかし年末に向け繁忙期となり、売上も多少増加すると思われる。」「価格競争による値下げ圧力が強く、値上げ困難」との意見。

『飲料』…「茶業生産者は単価が過去最低であり、最悪の状況。」との回答。

『その他』…「米中貿易摩擦の先行き不透明感が増しているなか、香港デモによる問題は根本的な解決策もなく、中国建国70周年記念行事を控え無事に終わるのか危惧する。」「当地域でも廃業する企業と新規設備投資する企業で経営の二極化が表れ初めている。」「8月31日に須津川溪谷にあるバンジージャンプ場でナイトバンジーが試行された。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	8.1	54.1	37.8	▲29.7	上 昇
売上高	24.3	35.1	40.5	▲16.2	上 昇
採 算	10.8	45.9	43.2	▲32.4	上 昇

〔建設業〕 景気ムード…【低調】

『総合建設』…「慢性的な人材不足のなか、離職者防止が難しく、人事についての再検討が必須と思われる。建設技能者不足のみならず高齢化も進んでおり、働き方改革の法改正や消費税増税の影響などで今後の見通しは想定できない。」「オリンピック関連工事等により、地方への発注数が少ないため、厳しい状況。また価格競争により金額を引き下げられ、その上、人員不足により受注数も限られる。この先、オリンピック関連工事が終了し、発注が増加しても大手ゼネコンの参入もあり、中小企業への物件数は限られ不安感がある。」「流通業界からの受注はあるが、その他の業種からの発注は減少している。公共工事は期末までの工事が多少出ている。」「施工業者の管理者及び下請け業者の人員も不足している。」との意見。

『一般住宅』…「住宅展示場にも定期的に予約があり、成約までに多少時間が掛るが成約率は高い。しかし、熟練大工も多忙で人手不足、仕事が有っても職人不足である。」「人口減による絶対的需要の減少により、住宅建築業界に関しては過当競争が生じ、販売は厳しくなる模様。そのためにも社員教育に力を入れたい。」「技術力の低い会社は淘汰され、人口減に伴い市場の縮小が予想される。」「建築設計関連では消費税増税に対する駆け込みが一段落し、今後の先行きが不透明。」とのコメント。

『建設関連』…「前年度に比べ非住宅建築物(店舗・倉庫・公共建築物他)の需要低迷により悪化、今後も厳しいと予想される。一方、消防設備に関しては災害対策意識が高まるなか、法的適合のため防災用品等の需要は期待したい。」「熱暑対策等で工場群に従業員の安全配慮への冷房・冷却設備の需要があると思われる。しかし、非生産部門の設備投資需要は不明だが、業績のよい企業は前向きである。」「労働作業員の高齢化による競争力の低下が大きな問題である。」「本年度は空調設備工事も新規事業で取組めたが、来期は受注が見込めず減少の予想。安価な下請け仕事は辞退したい。」「看板業は消費税駆け込み需要のためか受注量が多く多忙であるが、増税後の動向が不安。イベント業は天候急変によるキャンセルが平年よりも多く発生している。次いで人員確保が徐々に困難になっており、単価修正が必要。」との回答。

『土木関連』…「生コン関連では仕事量はやや減少傾向。官公庁工事の受注増加を望む。来年は若干増えると予想。」「生コン生産については前年度より、需要が低迷しているので生産調整を行っている。販売価格については再三の値上げ交渉を行っているが、難航状態である。今後、骨材の原料不足が見込まれるため、原料確保に全力を尽くしているが捗らず苦慮している。」「造園工事では公共工事の入札はなく、管理入札は価格競争が激しい。民間での需要は庭木の片づけ、伐採等が増加している。」「市では年間管理業務の委託期間が3年から5年になり、更新物件が減少しているため過当競争による落札金額低下で負担が増大。」「公共の造園工事の発注が低迷しているためか、造園業者の土木工事への進出が増加の様子」「近年庭園工事が増え、雑木や果樹・花木・草花の使用が増え、草花を使った庭造りに注目したい。」とのコメント。

『その他』…「富士東部地域ではピアゴがメガドン・キホーテに変わり、近々にはららぽーと沼津がオープンするため、車や人の流れの変化を危惧する。」「富士登山閉山間際でも、海拔0mから富士山3776mを目指すと思われる登山者をよく目にした。行き交う途中、何かおもてなしができないかなと思った。」「全国フランチャイズのイベント会社が松岡に進出、今後の影響に危惧する。」「吉永北地区では以前からサル・イノシシ・シカ等の被害があったが、電気柵等の対策を講じたことで被害が減少した。しかし、電気柵のない民家周辺や石井・鶴無ヶ淵地域周辺での被害が増加している。」「吉原北中北側に福祉施設で運営するレストランの工事が着工された。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期DI	来期予測
業況	14.3	60.7	25.0	▲10.7	下降
売上高	14.3	42.9	42.9	▲28.6	上昇
採算	18.5	40.7	40.7	▲22.2	横ばい

【卸 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『機械器具』…「当地域に於いては大きな後退は感じないが、ユーザーが購入に対して厳しくなり、今後より悪化すると想定。自動車産業の後退は顕著である。」「機械・工具卸については、明るい話があり、若干期待が持てそうである。」「サウジ石油施設攻撃で中東はさらに不安定になり、原油価格にどう影響するか気掛かりである。」「製紙業界において、家庭紙以外の需要は減少傾向が続くと思われる。食品・薬品関連の工場の一部、定期修理工事を控えている。」とのコメント。

『自動車部品』…「6月下旬から売上が減少傾向となり、前年対比4~5%の減少となった。要因として車輻構造の変化、貿易摩擦の影響、休日数の増加などが考えられ、今後も予測不能。」との声。

『金属部品』…「官製相場（政府主導の相場）の歪みが市場全体を冷え込ませ、長期国債の上昇により上場企業が急速に悪化すると予測。」との回答。

『建築材料』…「10月より軽減税率制度が導入されるため、レジ補助金の申請を行った。更にキャッシュレス決済ポイント還元事業の対応は理解するのも大変であったが、9月中に準備でき安心した。小規模高齢事業主等は補助金を申請したくてもできない方がいるのではないか。」とのコメント。

『紙』…「大手製紙メーカーの生産高がマシントラブル・火災などで低下し、卸売として需要はあるものの商品不足で供給しきれない部分が出ている。環境問題によるプラスチック製品から紙への流れが加速していくことに期待する。紙のまち富士市が活気を取り戻すチャンスではないか。」「5月の長期連休以降、需要が減少し厳しい状態が続いているが、年末に向け需要の回復を期待する。」との声。

『製紙原料』…「産業古紙が減少。中国の古紙輸入規制・景気減速に伴い輸出が停滞しており、先行きが見えない。」「古紙の使用量減少は、紙離れによる紙の生産量の減少が要因」「中国の古紙輸入制限により、日本を含む東南アジアでの需給が急速に悪化し、輸出価格が大幅に値下がりした。国内メーカーも古紙在庫・製品在庫ともに増加し、減産基調が続いている。」とのコメント。

『再生資源』…「銅の最大消費国である中国の景気減速と米中関税問題で相場が下落し、低迷状態。鉄スクラップは国内の製品不況により下降し、底の見えない状態。今後、米中貿易関税問題の早期決着や消費税増税の余波、オリンピック終了後の景気対策等を危惧する。」「鉄鋼製品価格は、中国の需要減により下落し、それに伴い鉄スクラップ需要も低調。消費税増税後の反動減を注視している。」との声。

『工業薬品』…「今期は、岳南排水路の点検・整備工事のため工場排水流入禁止（製紙会社は操業停止）期間が平日5日間、土日を含めて7日間と長かった。お盆休みも土日・祝日振替を含め9日間と長期の連休が重なり、売上額が減少。年末は、家庭紙類は繁忙期に入るので今後期待する。」「消費税増税前で工場の稼働率は良好。しかし、今後の消費税で混乱が生じ消費者の動向、企業の動き方で市場が変化すると思われるが予測不能。」と回答。

『その他』…「安価で過ごせるレジャー施設や飲食業が街の活性化になっている。」「個人商店の廃業が目立つようになって来た。先行きに希望が持てないという声が多い。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	0.0	57.1	42.9	▲42.9	横ばい
売上高	14.3	47.6	38.1	▲23.8	横ばい
採 算	0.0	52.4	47.6	▲47.6	上 昇

【小 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『各種食料品』…「タピオカブームによる売上増が継続。夏が終わるころに鎮静化する可能性もある。消費税転嫁対策の遅れで10月は混乱すると予想。」と回答。

『食料・飲料』…「お茶消費拡大・振興のため地道な努力を続けているが、増税に伴い益々消費者のサイフのヒモは堅くなると予測する。一方では、需要減に伴う販売価格の低下が続いており、消費が伸びない。」とのコメント。

『衣料品・呉服』…「連日の猛暑により客足皆無の日が続いたことに加え、老後生活に対する不安等で消費者の買い控えが多い。先行きは依然として不透明なままである。」との声。

『生花』…「営業力の高い大手事業所に取引先を取られている。仕入を市場に頼るが必要な品数が揃わず、仕入れる品物はロットが大きく売り切るのが困難。新規顧客の確保及び企業・病院等への営業に力を入れたい。」との回答。

『日用品・雑貨』…「時計・貴金属等販売では同業者の廃業が増加傾向、ネット通販の普及により競争相手は他業種（ギフト・文具店等）である。消費税引き上げにより今後の売上にマイナス影響があると考えられる。」「化粧品業界大手のネット販売の拡大、国内工場の新設、インバウンド・中国市場に引き続き堅調な需要がある。現時点では増税前の駆け込み需要の動きはないが、耐久消費財や消耗品の消費動向を9月末まで注視する。」とのコメント。

『家電』…「当業界はキャッシュレス消費者還元事業に加盟しているが、駆け込み需要の反動減による増税後の消費低迷を危惧する。」との意見。

『自転車』…「自転車の販売台数は減少しているが、電動自転車の割合が増加傾向。秋から冬に掛け2020年モデルが発表され、価格は上昇傾向にあるが、好季節となりスポーツモデルのニーズがある。」「静岡県では10月より条例で自転車保険加入が義務化される。」とのこと。

『自動車・自動車部品』…「登録車・軽自動車を含めた8月の新車販売台数は、前年同月比6.7%増となり2ヶ月連続で前年を上回った。増税後の動きは、現時点での判断は難しい。」「人口減少に伴い緩やかに需要が減少している。業界として安全対策の装備の義務化が加速し、設備投資に掛る経費が経営を圧迫している。」「社員の主力が団塊の世代であるため、今後雇用の確保が非常に心配である。」「今後も厳しい状況は続き、消費税増税の動向により不透明。」とのコメント。

『その他』…「吉原商店街に4軒程、若者向け料理メインの居酒屋がオープンした。物販店が減少するなかでの出店だが、若者中心に賑わっている。できれば昼の物販店に出店してもらいたい、夜の賑わいに貢献しており、よいことだと思う。旧静岡銀行吉原支店の跡地の駐車場が10月よりコインパーキングになる予定。」との情報。「小学生が商店街に校外授業のため来店、取材等がありボランティアで再度訪れ、商店に興味を示し将来に役立ててくれる機会になればよいと思った。」「富士駅前の空洞化に拍車がかかり、物販店は激減。再開発のまちづくり会社の話も聞こえてこず不安のみ、良い話は何もない。」「増税に伴うキャッシュレス決済(クレジットカード・電子マネー・QRコード)が消費者還元事業(最大5%の還元)として始まるが、複雑すぎて上手く利用できるかが問題だ。」との意見。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	5.0	40.0	55.0	▲55.0	下 降
売上高	30.0	30.0	40.0	▲10.0	下 降
採 算	15.0	25.0	60.0	▲45.0	下 降

【サービス業】 景気ムード…【厳しい状況】

『**飲食**』…「商店街及び周辺施設のイベント等で集客がある場合は多忙だが、通常時自店のみでの営業には限界があり、今の商店街での商売の難しさを痛感している。しかし来期は、商店街でのイベント（甲子秋まつり・軽トラ市・ハロウィーン・おとなまつり）が開催されるので、波及効果を狙いたい。」「消費税増税での影響を懸念している。」「同業者の間でも軽減税率の煩雑さには苦勞していると聞く。説明会に参加しても理解しにくい面が多く、又キャッシュレス決済等は高齢者には不向きで高齢者事業主の店ではレジを更新する資金もなく廃業するとの声もある。」「10%の増税は仕方がないが、軽減税率に伴う8%・10%の仕分けは小規模事業者にとって解釈の仕方が複雑で負担となり混乱が予想される。」とのコメント。

『**クリーニング**』…「ダストコントロール（掃除用具）事業の需要は、事業所用については下げ止まりつつあるが、家庭用については減少が続き、底が見えない。」「消費税率改正により、売上の大きな落ち込みが過去改正時と同様に考えられる。それを打ち消す景気回復感がない。」「夏物衣類は自宅で洗える素材が多く、毎年この時期の需要減少は止むを得ない。」との見解。

『**運輸・倉庫**』…「運送業界全体のドライバー不足が続き、高齢者ドライバーが増加。若年層の業界への流入がなく、根本的な解決策が見つからない。」「過去の増税を振り返り、増税後に想定よりも大きく下振れした経験をしているため見通しは暗い。」とのコメント。

『**自動車整備**』…「衝突回避する車輻（自動ブレーキ等）が増加し、衝突事故が減少、そのため钣金修理の入庫も減り売上也低下している。」との回答。

『**不動産**』…「宅地分譲地の供給は増加しているが、需要は増えていない。消費税増税による影響に懸念。」「持ちビルの老朽化は否めない事実でメンテナンス費用は増加傾向、そのため収益を圧迫している。しかし、場所的には良好と考えられるので設備費を投じ、現状を維持する方向である。」「高齢者世帯で後継者がおらず、不動産買取・売却希望が増えている。中古物件では消費税率10%の影響が気になる。」「相変わらず分譲地が増え続けている。一方では空き家が増え、中古住宅も過剰となっている。」「空き家リフォーム補助金の早期実施を望む」「消費税アップに伴う駆け込み需要は感じられなかったが、建売住宅は売れているようだ。」「同業他社の店舗が増加している反面、淘汰されてきている感もある。また、人員不足による疲弊感でモチベーションの低下もあり、生産性が落ちている。季節的な事もあり、需要が減少しているが冬季に備え体制を整えていきたい。」とのコメント。

『**求人広告・広告デザイン**』…「過当競争による売上減少、利益減が継続している。」「消費税増税関連の煩雑さは、国民目線になっていない。大型店の出店や業態の変化が多く地元の個店は生き残れない。」と回答。

『**専門サービス**』…税理士事務所の「顧問先では今期建設業界は落ち込んでいるが、10月以降は持ち直しの傾向にある。サービス業において消費税増額に伴う価格転嫁は難しい。業種間における格差は拡大している。」「消費税増税がスタートする時期となり、業界として対応準備を関与先に周知してきたが、曖昧な軽減税率制度故に、今後確認の手間が掛り、採算は悪化すると思われる。米中問題・日韓問題等の海外との影響や国内においての増税・キャッシュレス化の推進等様々な問題が生じている。一部の業界を除き、先行き不透明感が増大すると思われる。」「軽減税率導入で混乱が予想される。今後、記帳業務リスクの拡大が見込まれる。」「顧客である中小企業が二極化しているが、税理士業界でも収益力の高い事務所と低い事務所の二極化が進んでいる。人手不足が深刻化するなか、優秀な人材を確保でき組織力のある税理士法人に仕事が集中していくことが考えられる。」とのコメント。

『**各種学校**』…「販売価格の値上げ難は継続しているが、人材の質を向上させ、価格を上げて行けるよう努めたい。」との声。

『**旅館・ホテル**』…「長期滞在者及びスポーツ団体の利用減。高齢化により旅館業の規模を縮小する予定。富士駅⇄新富士駅の接続が悪くお客様の苦情が多い。」「公的資金で新規ホテルの進出予定があり、民間企業を圧迫している。」との意見。

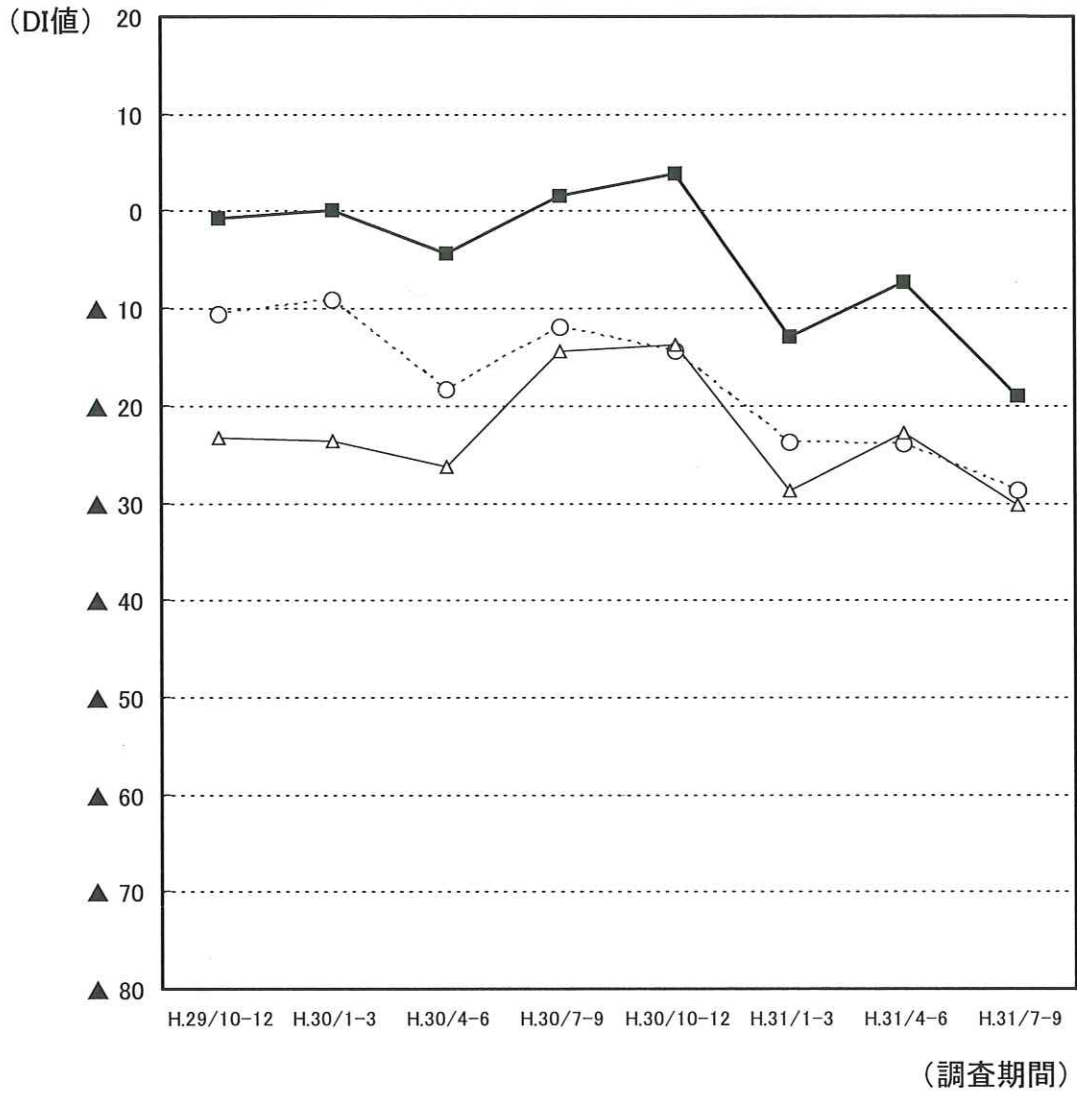
『**その他**』…「農業振興地域内に農業用機械の整備業を希望する企業の問い合わせがあるが、農業に関連するも都市計画上の制限があり進展はない。線引きの見通しを期待する声はよくあるが、農業関連の事案は、規制緩和を期待するしかない。」「富士本町にて「まちなかラボ（お試し出店）」や「あなた

も商店主支援事業（空き店舗対策事業）」の新規出店がスタートするので、楽しみにしている。地域活性化への取組みが継続することを期待する」「今年の岩本園での敬老会では、100歳以上が4名、最高齢は107歳であった。」「新々富士川橋の橋脚が4本完成し、あと2本完成すれば来年度は橋に取り掛かる見込み」「某製紙会社が旧大昭和製紙寮の跡地ほかに工場新設中であり、工事がほぼ完成に近づいていると思われるが、いまだ操業には至っていない状況。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	10.0	60.0	30.0	▲20.0	横ばい
売上高	20.0	43.3	36.7	▲16.7	上 昇
採 算	23.3	40.0	36.7	▲13.4	横ばい

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上 ○ 業況 ▲ 採算

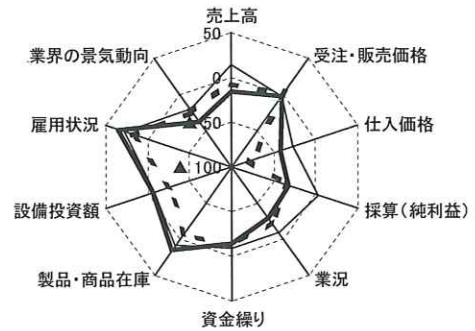


レーダーチャート

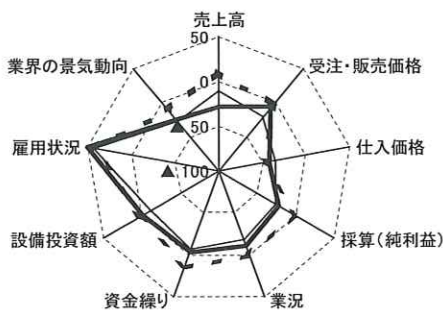
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

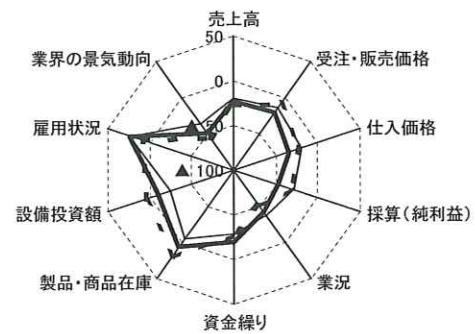
【製造業】



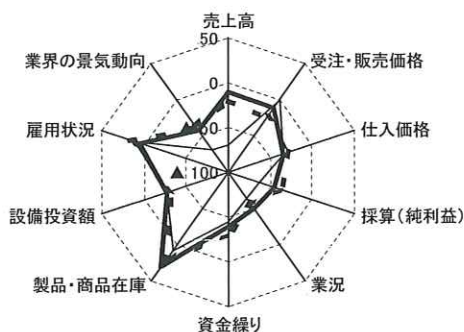
【建設業】



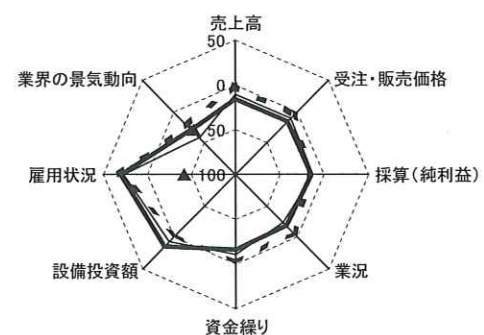
【卸売業】



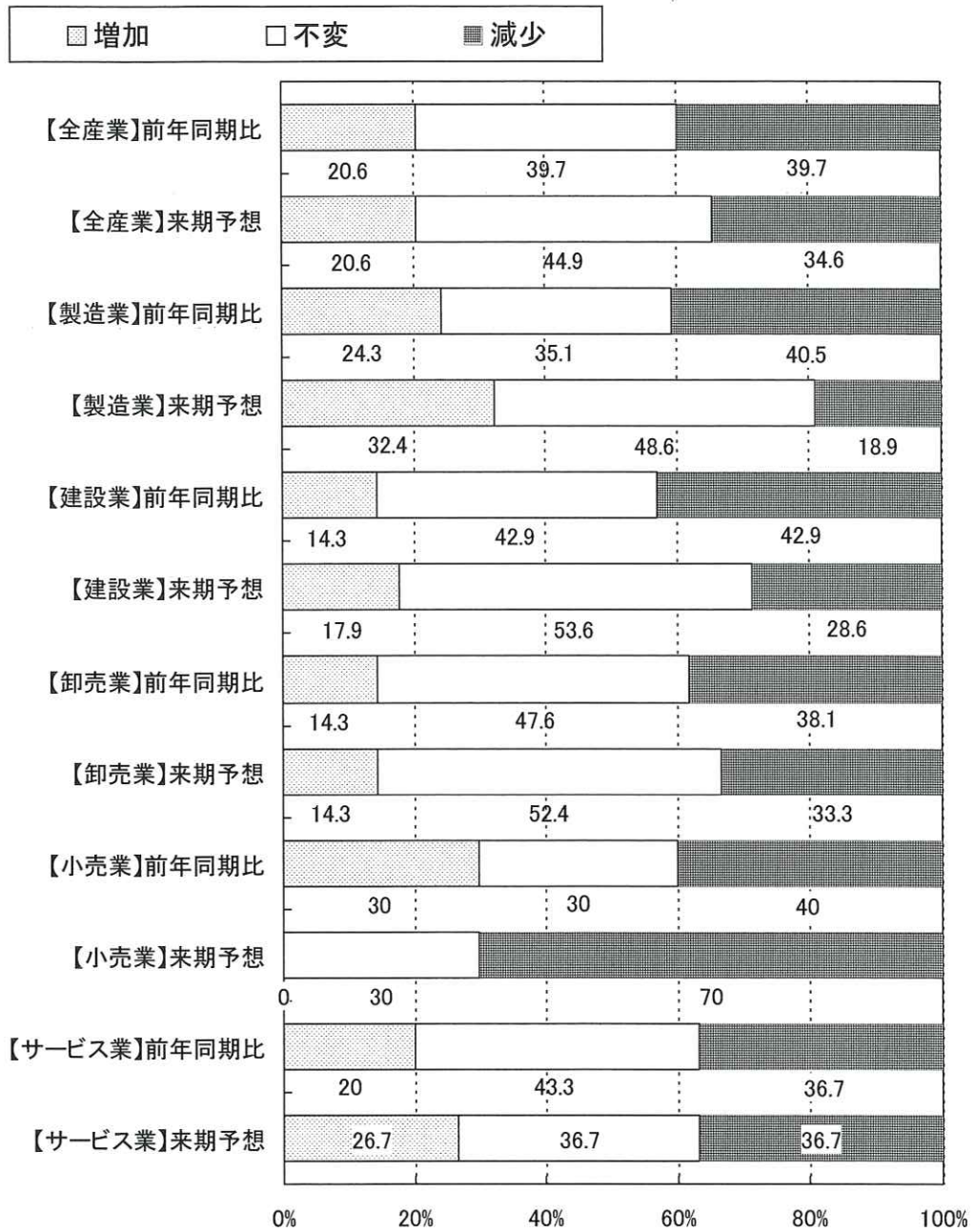
【小売業】



【サービス業】



売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 設備老朽化</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人材不足</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 売上減に伴う利益減／売上、利益減による資金圧迫</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 人員不足</p> <p>3 位 過当競争</p> <p>その他 商品、原材料仕入れ価格の上昇／売上減に伴う利益減／設備老朽化</p>
卸売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 過当競争／設備老朽化</p> <p>3 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人材不足</p> <p>その他 人件費高騰</p>
小売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 過当競争／設備老朽化</p> <p>その他 その他の需要の低迷</p>
サービス業	<p>1 位 設備老朽化</p> <p>2 位 販売価格値上げ難</p> <p>3 位 過当競争／人員不足</p> <p>その他 人材不足</p>

最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2019年9月11日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（概況）

県内の景気は、輸出・生産等に弱めの動きがみられるが、全体として緩やかな拡大を続けている。

最終需要の動向をみると、設備投資は増加が続いている。また、公共投資は着実に増加している。個人消費は雇用・所得環境が緩やかに改善する中、持ち直しの動きが続いている。一方、住宅投資は貸家を中心に弱めの動きとなっている。また、輸出は海外経済減速を受けて弱含んでいる。

こうした下で、企業の生産は弱含んでいる。

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状態が続いているほか、所得は緩やかな増加が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は前年を上回っている。

1. 需要項目別の動向

- （1）個人消費・・・雇用・所得環境が緩やかに改善する中、持ち直しの動きが続いている。百貨店・スーパー売上高は、季節商品を中心にやや弱めの動きとなっている。乗用車新車登録台数・販売台数は、新車投入効果から持ち直している。コンビニエンスストア売上高は、緩やかに増加している。家電販売額は増加している。ドラッグストア売上高は、着実に増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、緩やかに増加している。
- （2）公共投資・・・着実に増加している。（公共工事請負金額前年比：19/7月+42.9%⇒8月+5.9%）
- （3）設備投資・・・新たな需要の獲得や次世代技術の開発等に向けて、能力増強投資、生産性向上投資、研究開発投資等の増加が続いている。（設備投資額前年度比<短観>：18年度計画+7.2%⇒19年度計画+9.5%）
- （4）輸出・・・海外経済減速を受けて弱含んでいる。（輸出額前年比：19/6月▲8.4%⇒7月+13.6%<速報>）
輸送用機械を中心に弱含んでいる。
- （5）住宅投資・・・貸家を中心に弱めの動きとなっている。（新設住宅着工戸数前年比：19/6月+57.8%⇒7月▲21.1%）

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産・・・弱含んでいる。(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比:19/5月+0.2%⇒6月▲4.7%<速報>)

自動車・同部品は、弱含んでいる。二輪車・同部品は、低調な動きが続いている。食料品は、横ばい圏内の動きとなっているほか、電気機械は、増勢が鈍化している。化学は、増勢が鈍化している。はん用・生産用・業務用機械は、弱めの動きとなっている。紙・パルプは、弱含みとなっており、楽器は、持ち直している。

(2) 雇用・所得・・・労働需給:有効求人倍率、新規求人倍率は高い水準にあり、引き締まった状態が続いている。雇用者所得:緩やかな増加が続いている。(有効求人倍率:19/6月1.56倍⇒7月1.57倍)

一人当り名目賃金は、増勢が鈍化している。常用労働者数は着実に増加している。

(3) 物価・・・消費者物価指数(除く生鮮食品)は前年を上回っている。(指数・前年比:19/6月+0.0%⇒7月+0.1%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産・・・件数、負債総額ともに総じて落ち着いている。

企業倒産(19/8月、負債総額10百万円以上)をみると、件数(12件<前年比:▲45.4%>)、負債総額(14億円<同:▲37.3%>)

(2) 預金・・・概ね前年並みとなっている。(前年比:19/6月末▲0.2%⇒7月末▲0.2%)

(3) 貸出・・・減少している。(前年比:19/6月末▲2.4%⇒7月末▲1.9%)

(4) 貸出約定平均金利・・・前月比低下した。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)は前月比低下した。(19/6月1.813%⇒7月1.794%)。

以 上